

ひとりから

子ども会情報紙『ひとりから』

発行日/2022年3月1日

発行/真宗大谷派(東本願寺) 青少幼年センター
〒600-8164 京都市下京区藤訪町通六条下る上柳町199
TEL: 075-354-3440 FAX: 075-371-6171
E-mail: oyc@higashihonganji.or.jp

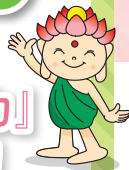
3カ寺での「お寺の子ども会」の様子



蓮ちゃん通信 その1

紙芝居

『ふたりのパンタカ』 を発刊しました!



慶讃法要を機縁として、お寺の子ども会をはじめとする仏事場で、青少幼年とともに親しめる教化教材として紙芝居『ふたりのパンタカ』(仏弟子の周利槃特の物語)を発行しました。3名の先生により、味わいのある作品となっています。

絵: 畠中 光亨 氏
文: 渡邊 愛子 氏
監修: 楠 章子 氏

限定発行 1,000部

慶讃特別価格
1,760円(税込)

265mm×380mm
(ケース付)



ご注文は東本願寺出版まで Tel.075-371-9189

会えるぬくもり

青少幼年スタッフ 藤澤 順子

4年前から地域の3カ寺で協力し合い、子ども食堂を目指して「お寺の子ども会」で月一回、遊びと昼食作りをしてきました。しかし新型コロナウイルス感染症の影響で、人と集まることが困難になり、子どもたちの楽しい時間が失われました。

子どもと関わる者として何ができるのか? 模索している時に、しんらん交流館で開催された「Zoom遊びの講習会」で、離れていてもお互いの顔を見て話し、動いてゲームができることを知りました。保護者の協力を得て、毎月2時間ほどの「Zoom子ども会」を続けています。

状況が緩やかになると、時間を決めて花火・水遊び。また地域のお寺を身近に感じてもらうために、お菓子をもらって回る仮装ごっこもしました。徐々に集まるとテンションが上がり、気持ちが解放されるのを大人もうれしく思います。

直接会ってお互いの温もりを感じるこの大切さ、そして今まで当たり前だと思っていた日常がありがたいことだったのだ、と子どもたちと実感しています。

君の名は

九州教区 観山 尚之 みやま なおゆき



大切な人

春は出会いと別れの季節と言われます。入学や卒業や進級、これまで共に学び遊んだ友だちと離れたたり、また新たな友と出会ったりと、自分も含め周りの様々なことが変化する季節です。

お釈迦様の教えの一つで、「諸行無常」という言葉があります。これは「世の中のあらゆるものが、常に変化し同じものは何一つ無い」という教えで、皆さんが進学や進級でこれまでの環境から変化したのも、この教えの中の一つであります。細かなところを言えは、時に笑ったり泣いたり、怒ったりと常に私たちは変化しているのです。

ここで皆さんに思い返していただき、お尋ねしたいのが、「あなたがどんな状況でも常に側にいてくれた方はどなたですか?」という質問です。

嬉しい時楽しい時、反対に悲しい時つらい時。これまで様々な状況に身を置いたことでしょうか。パッと思い浮かぶ人もいれば、すぐには思い浮かばない人もいるかもしれません。でもゆっくり考えるとお出でくるはず。それでも思い浮かばない人や、たくさんいてわからなくなった人には聞き方を交

えてみます。

「あなたの名前をいつも呼んでくれる人はどなたですか?」とどうでしょうか。思い浮かんだのではないのでしょうか。

「名前」というのはあなたを表す大事な名物です。その名を呼んでくれる人が実はあなたにとって大切な人なのです。「名」という漢字は、「夕」と「口」が合わさってできた漢字です。つまり、「夕方になり、暗くなって相手の顔が見えづらくなると口に出して言うもの」という意味です。この由来からわかるように、名前は呼ばれて初めて意味をなすものなのです。誰からも名前を呼ばれないというほど悲しいものはありません。

絵本のお話

そのことを教えてくれる素晴らしい絵本があります。題名は『なまえのないねこ』という、一匹の名前の無い野良ネコが自分の名前を求めて彷徨う物語です。この野良ネコは、お寺のじゅ

子どもたちと聞く法話

げむという名前のネコに出会い、自分で好きな名前を名づければいいのだ、と言われて探し回るのですが、結局どんな名前を名づければいいのか見つかりませんでした。一人ぼっちで悲しんでいるところに一人の人間の女の子が現れます。そしてこの野良ネコは、その子に名前を付けられ、初めて名前を呼ばれるのです。この時にこの野良ネコは大事なことに気づくのです。それは、「名前がほしかったのではなく、本当にほしかったのは名前を呼んでくれる人だった」ということです。この絵本は絵も素晴らしいので、この野良ネコの名前が気になった方は、ぜひ手に取って読んでいただけたいと思います。

「当然」の反対語は「感謝」

よくよく考えると私たちの持っている「名前」は、自分で名づけたものではなく、親の願いのもと名づけられたものなんです。名前は与えられ呼ばれることによって、この世界と繋がりをもち、あなたも重要なものなのです。だから、あなたの名前を呼ぶ人がいるということが大事なことです。

名前を呼び、呼ばれる。こんな当たり前のことが実はかけがえのない宝なのです。社会も環境も、そして自分自身も常に変化するからこそ、あなたの名前を呼び「ここにいいよ」と認

めてくれる人をどうか大切にしてください。当たり前のことを当たり前として流して生きていくと「ありがたう」という感謝の言葉が出なくなり。一緒にいて当たり前家族や友だちこそ感謝の気持ちを忘れずに生きていくて下さい。新たな門出を迎えるあなた方お一人一人に大きな希望と感謝の心を忘れること無きことを願って。

【紹介された絵本】

『なまえのないねこ』小峰書店

竹下文子 文・町田尚子 絵

蓮ちゃん通信 その②

『子どもと読みたい ほとけさまのおはなし ~24のレターブック~』が発刊されました。

「いい天気ってどんな天気?」、「人生で大事なことはなんだろう?」、「死ぬことは怖い?」など子どもたちは感じた疑問を素朴な言葉で伝えてくれます。子どもの素朴な疑問を大切に。子どもの頃に自分にあらためてであらう。子どもと大人をつなぎ、一緒にほとけさまのお話を聞きかけになることを願った子どもも大人も読める24の短編の法話集です。仏教や東本願寺に関するミニコラムも掲載。幅広い世代の方々に読んでほしい一冊です。

サイズ: 文庫本、ページ数: 164頁、価格: 715円 (税込)

ご注文は東本願寺出版まで Tel.075-371-9189



子どもたちも簡単に作れる

ペットボトル スノードーム

プレゼント
にも
ピッタリ!!

ひとりからはじめる
イベントレシピー

材料

- ペットボトル ● 水
- 透明な洗濯のり(液体のり)
- ビーズ、スパンコール、ラメ、モールなど
(100円ショップにも売っています)
- ビニールテープorマスキングテープ

作り方

1



ペットボトルを洗い、
中にビーズやスパンコール
などを自由に入れます。

point ①

キラキラ素材を
多めに使うと、
雰囲気が出て
キレイ!

2



水をペットボトルに注ぎます。
(目安 水：洗濯のり = 7：3)

point ②

水を減らして
洗濯のりを増やすと
中に入れた飾りが
ゆっくり動くよ。
お好みで!

3



point ③

溢れる直前まで
注ごう!

空気が入らないように洗濯のりを、
飲み口ギリギリまでゆっくり注ぎます。

※空気(泡)が入っても時間がたてば
消えていきます。

4



キャップを閉め、ペットボトルを傾けて
中身を混ぜ合わせます。

point ④

上下左右に
振ってみよう!

point ⑤

外側を
キラキラシールや
リボンなどで
飾り付け
してみてください!

5



キャップがゆるんで開かないように、
キャップの部分をビニールテープや
マスキングテープなどで留めて
できあがり!!

ペットボトルのサイズは350ml以下の小さめが
オススメ。小さな子も持ちやすいです。また凸凹
の少ないものを選ぶと中がよく見えます。

「ひとりから」はじめる仏事

子どもたちに
伝えてみませんか？

※大正時代、本山社会課から『児童と宗教』という児童教化の指導者のための雑誌が発刊されていました。そこには、先輩方が伝えてくださった遺産がたくさん。このコーナーでは、そこに連載されていた「教案」から、私たちの生活の中の仏事に関するものをサガエさんがリライトしてお届けします!!

※本山社会課…社会と寺院をつなぐべく初めて派内に設置された宗務組織。宗派の青少年教化を担っていた。

ぼ さつ 菩薩さまの じ ひ 慈悲の「はたらき」

今日は、菩薩さまの慈悲の「はたらき」についておはなししましょう。わたしたちはさまざまなことに出会います。ところが傷つき悲しくなることもあります。その苦しみがいかにつらく悲しいものであっても、菩薩さまはいつも見守り、やさしく慈し^{いつく}みで包んでくださいます。つらく悲しい人を菩薩さまは懸命に願いつづけてくださいます。そして、苦しみがいつか「苦」ではなくなり、生きる「勇気」へと導いてくださいます。

どのような苦しみに会おうとも、菩薩さまは慈しみのところをわたしたちに届けています。また、菩薩さまはわたしたちの悲しみを「たね」として、生きる「勇気」にしてくださるのです。

菩薩さまは、ひとり残らず苦しみの世界、悲しみの世界から救い出す誓いを立てられました。一分一秒も休むことなく、はたらいてくださっているのです。

出典：幡谷淳信「十月教案」布施
『児童と宗教』3巻9号より、一部抜粋、現代語訳
リライト：“サガエさん”こと佐賀枝夏文

ボクはこんな風に話してみました



さがえ なつふみ
佐賀枝 夏文
(大谷大学名誉教授)

つらいさみしい気持ちの友だちに、菩薩さまのおはなしを聞いてもらいたい。君はひとりじゃなくて、悲しいとき、つらいとき、菩薩さまはいっしょに悲しんでくださるんだ。どんなときも君の傍^{そば}にいてくださり、いっしょに涙を流し、悲しみやつらさを「生きる勇気」に導いてくださるんだ。君は決してひとりじゃないんだ。

コーナーの活用例

- ④ 本文(菩薩さまの慈悲の「はたらき」)をそのまま覚えて話す。または、ご自身の表現で話す。
 - ④ プリントして配布し、朗読する。
- 上記以外にもその場に合わせてご活用ください!

本文のPDFデータは、青少年センターホームページ「子どもとあそぼう」のコーナーからダウンロードいただけます。

◎今年も花まつりの季節を迎えます。この2年で「生きつらさ」を感じる子どもたちがさらに増えています。この春こそは、おしゃかさまのお誕生の物語を子どもたちと聞く場と時間を過ごしたいです。

(編集長 池崎方子)

◎本紙「子どもたちと聞く法話」で観山さんにご紹介いただいた「なまえのないねこ」を買って娘たちと読みました。サガエさんの「ひとりからはじめる仏事」の菩薩さまのお話ともあわせる、名前を呼ぶことと慈悲心のはたらきとの関係について考えさせられました。今は菩薩さまのおはなしが輝く時だと思えます。子どももおとなも想像力豊かに語り合えたらどんなにいいだろうと思います。

(青少年センター主幹 藤間哲祐)

編集後記



真宗大谷派の青少年教化の情報をお届けします。

<https://www.facebook.com/oyc.hitorikara/>

※facebookの個人アカウントをお持ちでなくてもご覧いただけます。

●真宗大谷派(東本願寺)青少年センター TEL.075-354-3440

青少年センターホームページ

東本願寺 青少年センター

検索

ぜひ、ご覧ください!!